

解 説

不用薬品保有調査のお礼と 今後の取扱いについて

処理指針ワーキンググループ

教養部教授 岩 知 道 正

環境管理センター報第11号でお知らせしたように、研究室や講座で不用となった薬品の取扱いについて平成元年11月2日に開催された全学の環境管理センター運営委員会で審議され、その取扱のフローチャート（図1）が承認された。（岡山大学環境管理センター報，11号，20頁）

そしてこのフローチャートに基づいて、平成元年1月19日付で、不用薬品リストを作成しセンターへ提出する旨の文書を各部局へ通知した。各部局では各講座、研究室に調査を行い、その結果を不用薬品調査表に記入してセンターへ提出していただいた。この調査では、各部局の担当の方を始め、多くの方々に多大なご協力を頂き、平成2年2月15日で集計が終了した。ご協力を頂いた方々に、紙面を借りてお礼を申し上げたい。

この調査で明らかになった不用薬品は全学で約2000件に達した。この不用薬品のリストの今後の取扱いについて、センターの処理指針ワーキンググループで検討を重ねた結果、この集計された不用薬品のデータベース化を進めていくこととなった。このデータベースの形式もほぼ決定し、現在はこのデータベースへの入力業務の予算を得るための努力が鋭意行われているところである。

このデータベースが完成した後、各講座、研究室への回覧が行われ、有効利用または処分のステップに入ることになる。

最後に、この不用薬品の取扱システムが早く定着することを期待すると共に、この円滑な運用が行われるよう改めて皆さんの協力を紙面を借りてお願いしたい。

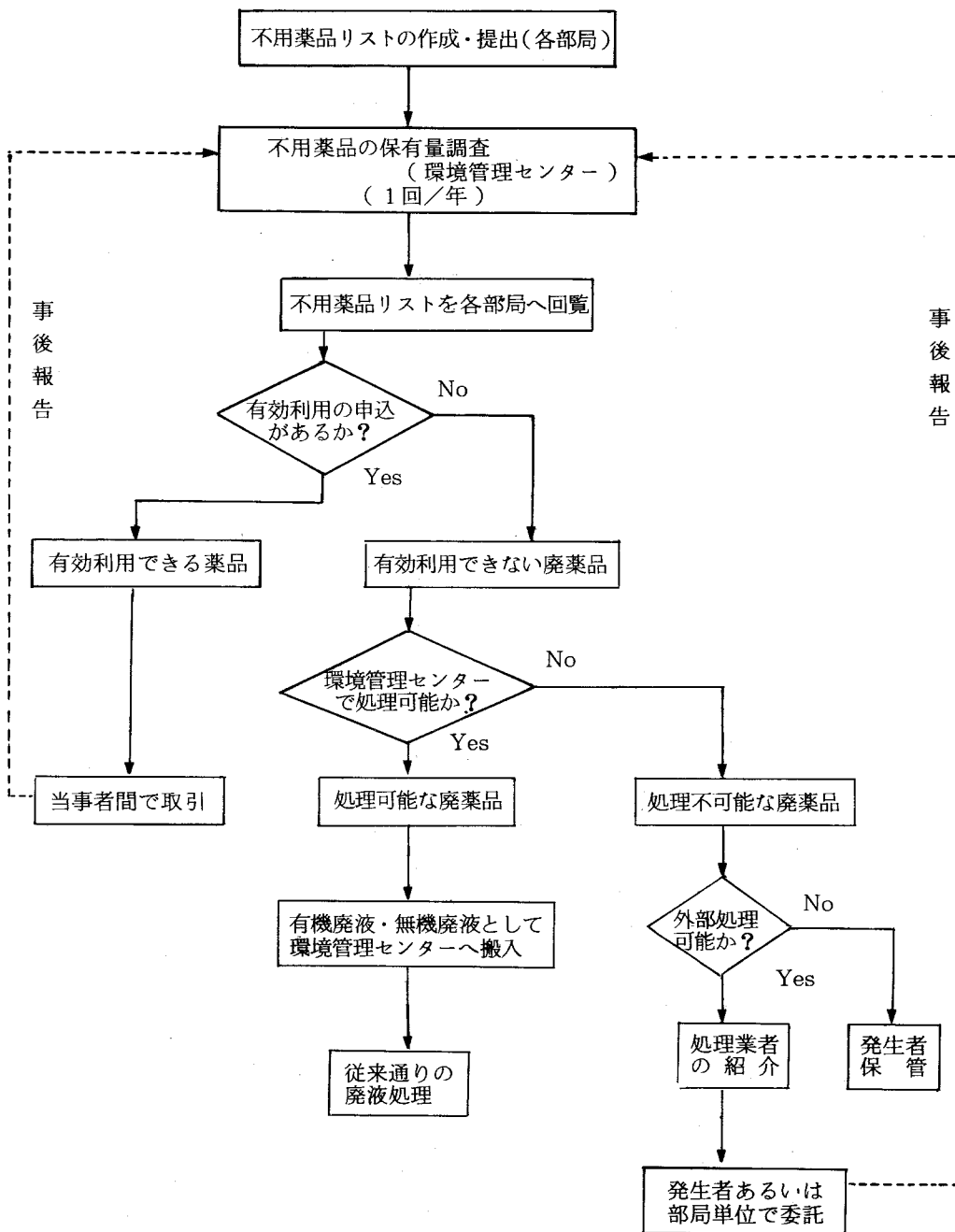


図1 不用薬品取扱についての取り決め